



学校だより

11月号
横浜市立桜台小学校
令和2年10月30日発行

Mの逆上がり

校長 小宮 健

初任校での思い出です。

私が教師となって初めて担任した3年生のクラスにM（敬称略）という男子がいました。Mは何に対しても興味を示すが、意欲が持続せず、途中で諦めて「どうせ、僕なんか…」と下を向いていじけてしまうことがよくある子でした。お世辞にも運動能力が高いとはいえない上に体格も影響し、鉄棒が苦手でした。私はそんなMに何とか『逆上がり』ができるようになってほしくて、鉄棒の練習によく付き合っていました。苦手なものを克服して自信をつけさせたかったのです。

しかし、私の未熟な指導法で繰り返し教えても、Mはなかなかコツをつかむことができず、結局私が担任した1年の間に『逆上がり』ができるようにはなりませんでした。

ある日の午後、確か出張に行くために校門近くの鉄棒の前を通りかかると、進級した4年生の男子数名が鉄棒で遊んでいました。「先生、見て！」と体育で学習した新しい技を自慢げに披露し合う活発な子たちに「すごいなあ。うまくなったね」と声をかけ、通り過ぎようとしたとき、鉄棒を握りながら友達の様子を羨ましそうに眺めているMの姿が目に入りました。

私は何気なく「Mは『逆上がり』だよな」と話しかけました。言葉を言い放ったあとに私はハッとしました。おそらくその言葉をMは「お前はまた『逆上がり』だよな」と言われたと感じたのでしょう。Mの表情が一瞬にして怒りへと変わったのです。『逆上がり』で悪かったなあ！——どうせオレはまだ『逆上がり』ですよ」と吐き捨てるように言い放った表情には悔しさが滲み出ていました。それからのやり取りは今でも鮮明に覚えています。

「何てことを言ってしまったのだ。大人気ない。謝らなくては…」と心の中で呟く自分の気持ちとは裏腹に、返した言葉は「悔しかったらやってみろよ！」と追い打ちをかけるような配慮の欠片もないものでした。その瞬間、Mの中で何かが弾け、興奮したMは間髪入れずに「やってみろよ！」と怒鳴ってきました。私ももう後には引けず、「おう、やってみろよ！！」と真顔で言い返していました。そして、Mは感情の高まりを抑えきれないまま、一心不乱に地面を強く蹴り上げました。すると、その足に引き上げられるかのように腰が宙に浮き、体が鉄棒を巻き込むように一回転したのです。

M自身が一番驚いたのかもしれませんが。一瞬、間をあけて「やったー！！できた！」とつぶらな瞳を真ん丸に見開いたMの顔を忘れることができません。それまでの険悪な空気はどこかに吹っ飛び、私たちは手を取り合って喜び、「Mが『逆上がり』できたぞ！」と周りの子たちからも拍手が起きました。

後日、担任から「Mは『逆上がり』ができたことを本当に喜んで、何に対しても前向きになってきた」と伝えられましたが、私がMに発した言葉は、教師として最低の投げかけだったと猛省しました。もし、あの時『逆上がり』ができていなかったら…。

（裏面につづく）

そんな自分をどうしても許すことができず、自戒の念を込めて、尊敬する先輩のK先生にMとの出来事を話しました。すると、K先生は私を責めもせず、「小宮さんは『かかわった』んだと思う。鉄棒の前を素通りしていたら何も起こらなかった。少なくとも背中を押してあげたんだよ。教師は『かかわること』が大切なんだ」と仰ってくれました。私はその言葉に救われました。ただ、今でもMに対して「申し訳なかった」と心に何か引っ掛かったままなのも事実です。あれから30年ほどの月日が流れましたが、Mが私に教えてくれたこと——この『Mの逆上がり』が私の教師としての原点であります。

すべての教科学習に基礎・基本があるように、私たち教職員一人一人には原点や基礎・基本があるのだと思います。桜台小学校の教職員それぞれの原点に根差した



思いを結集して、心豊かな子どもたちが育つ学校を目指してまいります。

さて、来る7日（土）に運動会が実施されます。コロナ禍による様々な制約事項にご理解とご協力をいただきありがとうございます。子どもたちに「距離があっても（遠くても）、みんなの気持ちを集める（近づける）ことはできる。全校が一つになって盛り上げよう！」と呼びかけてきました。3密を避けながら、でも「心は密」で熱い運動会。保護者1名限定の参観となりますが、さくらっ子たちのひたむきな姿と輝く笑顔をどうぞご期待ください。